

# JaSST Review' 22

## オープニング

風間 裕也

# JaSST Review' 22 開幕！

ご参加いただき

ありがとうございます！

# JaSST プレミアムスポンサー協賛企業

**AGEST**

 **VALTES**  
FOR QUALITY CONFIDENCE

その常識、変えてみせる。

**SHIFT**

**Human Crest**

**TECHVAN**

 **VERISERVE**

# JaSST Review' 22 スポンサー協賛企業

デンソークリエイト様

# 自己紹介

- 風間 裕也
- 株式会社ビズリーチ
- JaSST Review実行委員長
- NPO法人ASTER正会員



# お伝えしたいこと

- JaSST Review開催の経緯
- JaSST Review' 22の狙い
  - 「レビューとして捉えていなかった活動」「普段のレビュー」とは何か？
- 講演で期待していること
- セッションをみる際のお願い
- 聴講者の皆さんへの事前アンケート結果
  - 「レビュー」で思い浮かぶものは違う
- ワークショップで期待していること

# お伝えしたいこと

- JaSST Review開催の経緯
- JaSST Review' 22の狙い
  - 「レビューとして捉えていなかった活動」「普段のレビュー」とは何か？
- 講演で期待していること
- セッションをみる際のお願い
- 聴講者の皆さんへの事前アンケート結果
  - 「レビュー」で思い浮かぶものは違う
- ワークショップで期待していること

この時間で  
お伝えします

# JaSST Review

# なぜJaSSTでレビュー？

- JaSSTは**ソフトウェアテスト**を扱っているシンポジウム
- JSTQB(ソフトウェアテスト技術者資格認定)には、「**静的技法でテストできる方法の一つ**」として紹介
  - 2019年改訂版ではレビューの**記載文量が約2倍**に
- JaSSTで取り上げる事例の一分野にレビューがある
- 今年で5回目

# JaSST Review' 22の狙い

# 今回のJaSST Reviewの狙い

見方を変えることによって、

今まででは**レビューとして捉えていなかった活動**の中から、  
**普段のレビューに活用できる何か**があるのではないか。  
今年はそんなことを議論していきたいと考えております。

(『JaSST Review' 22 参加のお誘い』より)

「レビューとして  
捉えていなかった活動」  
「普段のレビュー」  
とは何か？

# ■ レビュープロセスが存在する by ISTQB

---

ISTQBでは、レビュープロセスを定義しています。  
しかし、細かいプロセスについての記述はありません。



[http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation\\_Version2018V31.J03.pdf](http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation_Version2018V31.J03.pdf) の記述を元に作成

# 個々のレビューに対する仮説

まず「個々のレビュー」の部分について考えていきます。

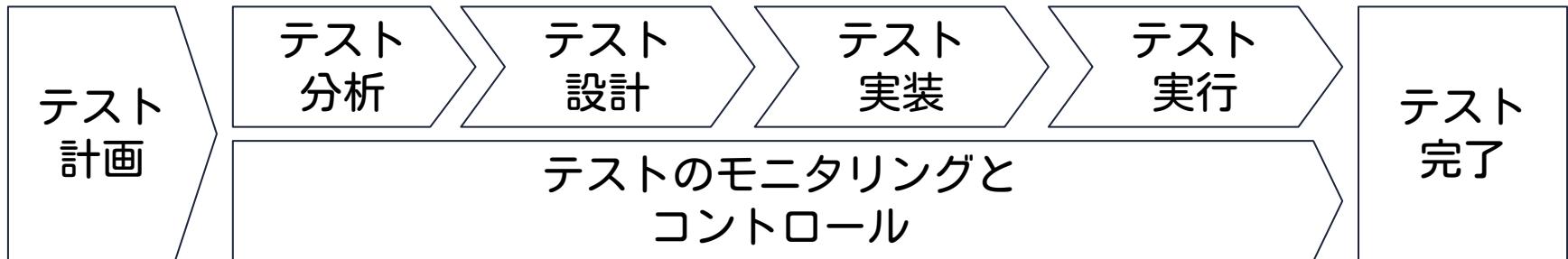


個々のレビューとは、具体的にどのような思考プロセスで進めていくのでしょうか？

# ■ テストプロセス by ISTQB

---

ここで参考になるのが「テストプロセス」です。  
ISTQBでは、テストプロセスも定義しています。

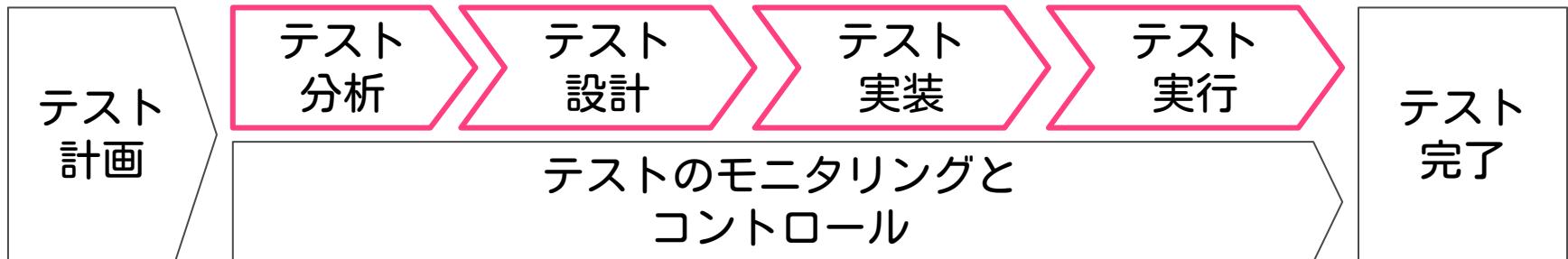


出典: [http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation\\_Version2018V31.J03.pdf](http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation_Version2018V31.J03.pdf)

# ■ テストプロセス by ISTQB

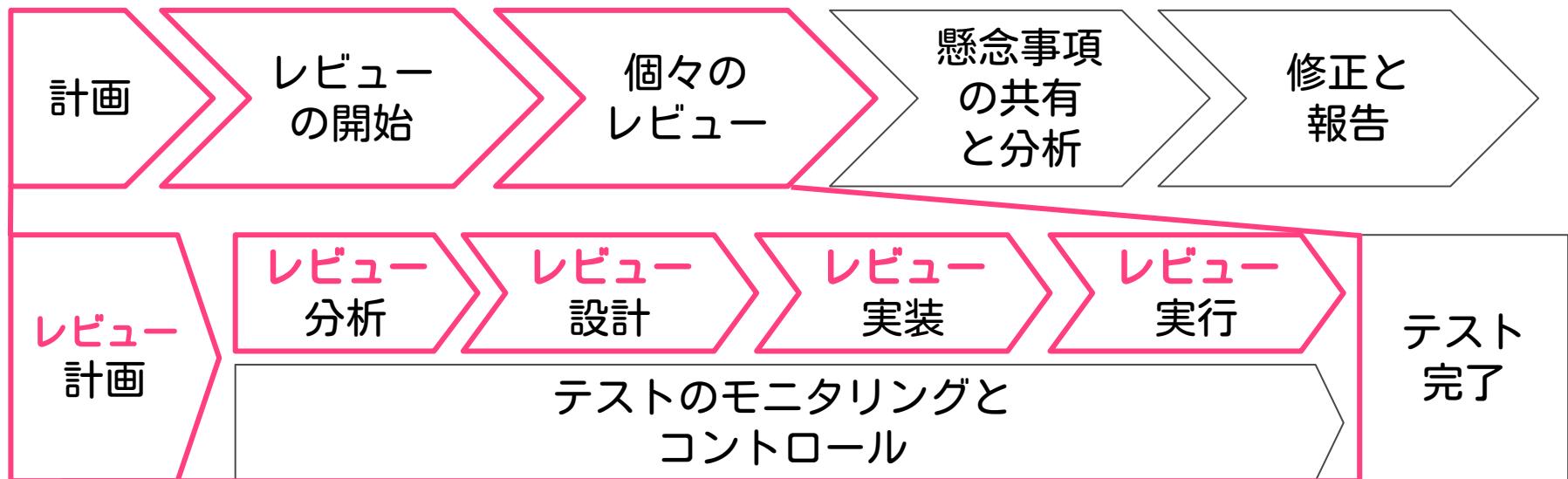
---

テストプロセスでは、単に「個々のテスト実行」ではなく  
テスト分析、テスト設計、テスト実装、テスト実行と、  
**テストで行うことの思考を分けて表現**しています。



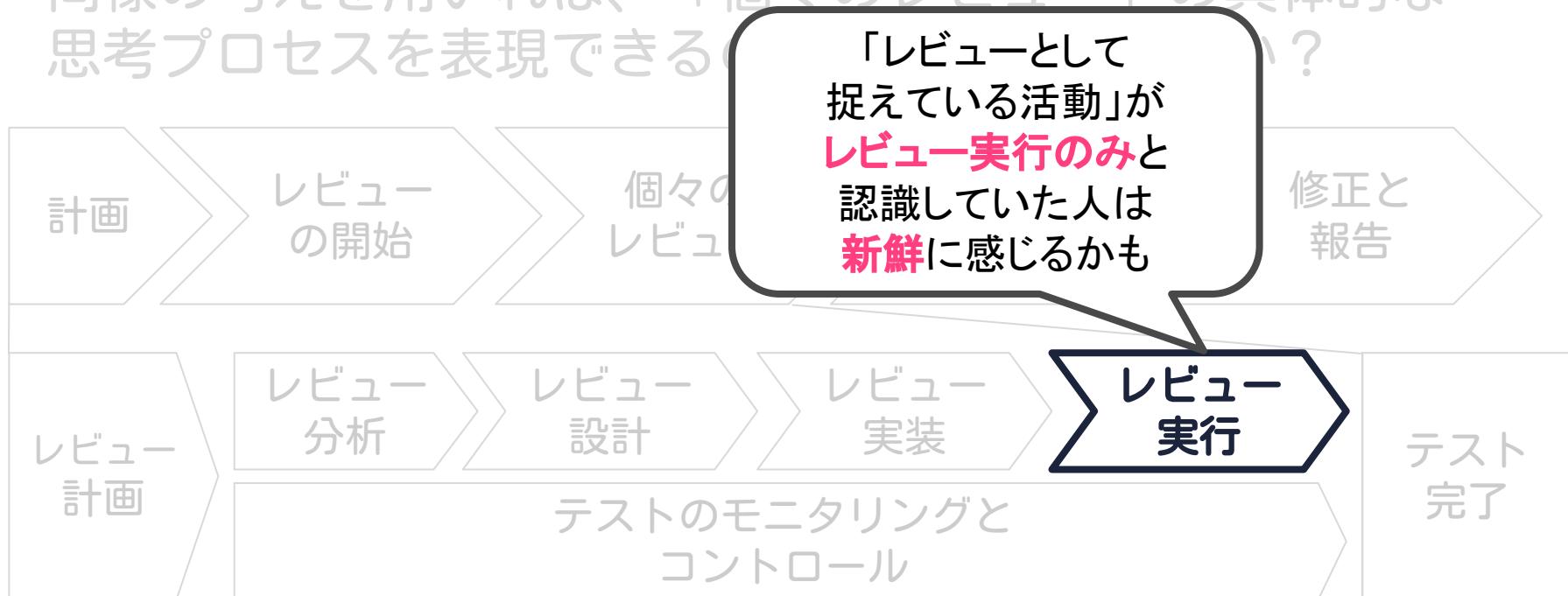
# ■ 個々のレビューに対する仮説

同様の考え方を用いれば、「個々のレビュー」の具体的な思考プロセスを表現できるのではないかでしょうか？



# ■ 個々のレビューに対する仮説

同様の考え方を用いれば、「個々のレビュー」の具体的な思考プロセスを表現できるのではないか？



# ■ 懸念事項の共有と分析に対する仮説

---

次に「懸念事項の共有と分析」の部分を考えていきます。



この部分は、レビューとドキュメント作成者との  
やり取りが重要になるはずですが、  
**具体的にどのようにやり取りをすれば良いのでしょうか？**

# やり取りのモデル図

レビューは  
成果物に対して、  
思考をした上で  
発言をします。

それをドキュメント  
作成者が理解して  
ドキュメントの改善  
を試みます。

成果物  
観点  
チェックリスト



思考



レビュー

発言

理解



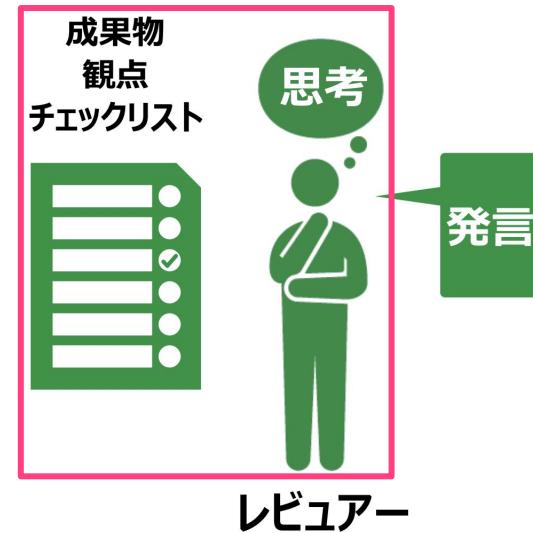
レビュー

# 思考方法（リーディング技法）は存在する

このうち、思考方法についての技術である  
**リーディング技法は存在**しており、  
ISTQBでも以下の4つを明記しています。

- チェックリストベース
- シナリオとドライラン
- パースペクティブベース
- ロールベース

参考  
<http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundationVersion2018V31.J03.pdf>



# ■発言の仕方についての具体的記述がない

一方、発言の仕方は以下の記述しか存在していません。

- レビューは**信頼できる**  
**雰囲気**で行う
- 自分の言動が  
他の参加者に対する  
**退屈感、憤り、敵意**だと  
受け取られないように  
気を付ける

参考

<http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundationVersion2018V31.J03.pdf>

成果物  
観点  
チェックリスト



思考



レビュー

理解



レビュイー

# ■ 発言の仕方についての具体的記述がない

一方、発言の仕方は以下の記述しか存在していません。

- レビューは信頼できる雰囲気で行う
- 自分の言動が他の参加者に対する退屈感、憤り、敵意だと受け取られないように気を付ける



「レビューとして捉えている活動において、**リーディング技法だけ**が必要な技法であると認識していた人は、**新鮮**に感じるかも

参考  
<http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundationVersion2018V31.J03.pdf>

レビュー

レビュー

# ■発言の仕方についての仮説

---

私たちJaSST Review実行委員会では、  
**「発言に際して、質問による深堀りが重要ではないか？**  
と考えています。

ただし、具体的にどのように質問して深掘りするのかは  
まだ言語化できていません。

講演で  
期待していること

時間	題名	登壇者	開催場所
9:45～10:00	はじめに	風間 裕也	Zoom Webinar
10:00～10:45	講演1	Matt 氏	
10:45～11:30	講演1のQ&A		
11:30～11:40	スポンサーセッション1		
11:40～12:40	休憩		Zoom Meeting
12:40～12:50	スポンサーセッション2		
12:50～13:00	ワークショップを始める前に		
13:00～15:00	ワークショップ	安達 賢二 氏	
15:10～15:15	休憩		
15:15～16:15	ワークショップの振り返りと解説	安達 賢二 氏	
15:30～16:20	クロージングセッション	風間 裕也	

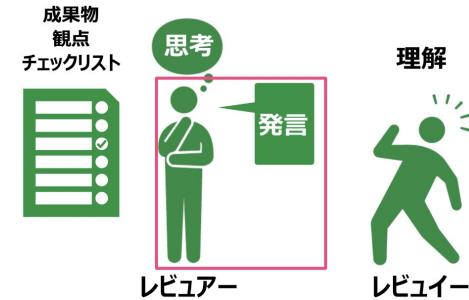
# Mattさんの講演で期待していること

Mattさんには、

「“懸念事項の共有と分析”では  
**質問による深堀りが重要**ではないか？」  
の仮説に対して話してくれることを期待しています。

なぜならば、Mattさんは「質問による深堀り」が  
重要スキルとなる**実例マッピングの考案者**だからです。

また、**より同期的なコラボレーション**に  
についても話してくれることを期待しています。



# 講演を見る際のお願い

# 講演を見る際のお願い

- SNSへの投稿のお願い
  - 録音・録画**NG**
  - 共有画面についてのSNS投稿は**OK**
  - SNS投稿は基本“ポジティブ”でお願いします！
  - Twitterのハッシュタグ： **#jasstreview**

# Mattさんの講演を日本語で聞くには



1. Zoom Webinar下部にあるメニューから「通訳」を押す
2. 日本語を選択する

Matt氏の講演中、同時通訳が聞こえるようになります。

JaSST Reviewを通じて  
レビューで考えることを  
広げていってください！